

平成 28 年社会生活基本調査

生活行動に関する結果の概要（高知県）

平成 28 年 10 月 20 日現在で実施された「平成 28 年社会生活基本調査」の生活行動に関する結果が 7 月 14 日に総務省統計局から公表されました。

○社会生活基本調査

社会生活基本調査は、国民の生活時間の配分及び自由時間における主な活動について調査し、仕事や家庭生活に費やされる時間、地域活動等へのかかわりなどの実態を明らかにし、各種行政施策の基礎資料を得ることを目的に昭和 51 年から 5 年ごとに実施しています。

平成 28 年の調査は、全国の世帯から無作為に選定した約 8 万 8 千世帯に居住する 10 歳以上の世帯員約 20 万人を対象に実施され、高知県では、総務省が指定する 28 市町村 131 調査区（1572 世帯）が調査対象となっています（平成 28 年調査は 9 回目）。

今回公表する結果は、自由時間における過去 1 年間（平成 27 年 10 月 20 日～平成 28 年 10 月 19 日）の主な活動（「学習・自己啓発・訓練」、「ボランティア活動」、「スポーツ」、「趣味・娯楽」及び「旅行・行楽」）に関する集計です。

○今後の公表予定

- ・生活時間に関する結果・・・・・・・・・・・・・・・・平成 29 年 9 月
- ・詳細行動分類による生活時間に関する結果・・・・平成 29 年 12 月

目 次

1	学習・自己啓発・訓練	1
2	ボランティア活動	2
3	スポーツ	3
4	趣味・娯楽	4
5	旅行・行楽	5

行動者数……過去1年間に該当する種類の活動を行った人（10歳以上）の数
行動者率……行動者数の10歳以上人口に占める割合（%）
平均行動日数 ……行動者について平均した過去1年間の行動日数

1 学習・自己啓発・訓練

- 「学習・自己啓発・訓練」の行動者率は27.7%で、5年前より0.1ポイント低下。
- 種類別では「パソコンなどの情報処理」が0.8ポイント低下する一方、「芸術・文化」、「商業実務ビジネス関係」は1.0ポイント上昇。
- 「介護関係」の行動者率は全国より0.3ポイント高い。

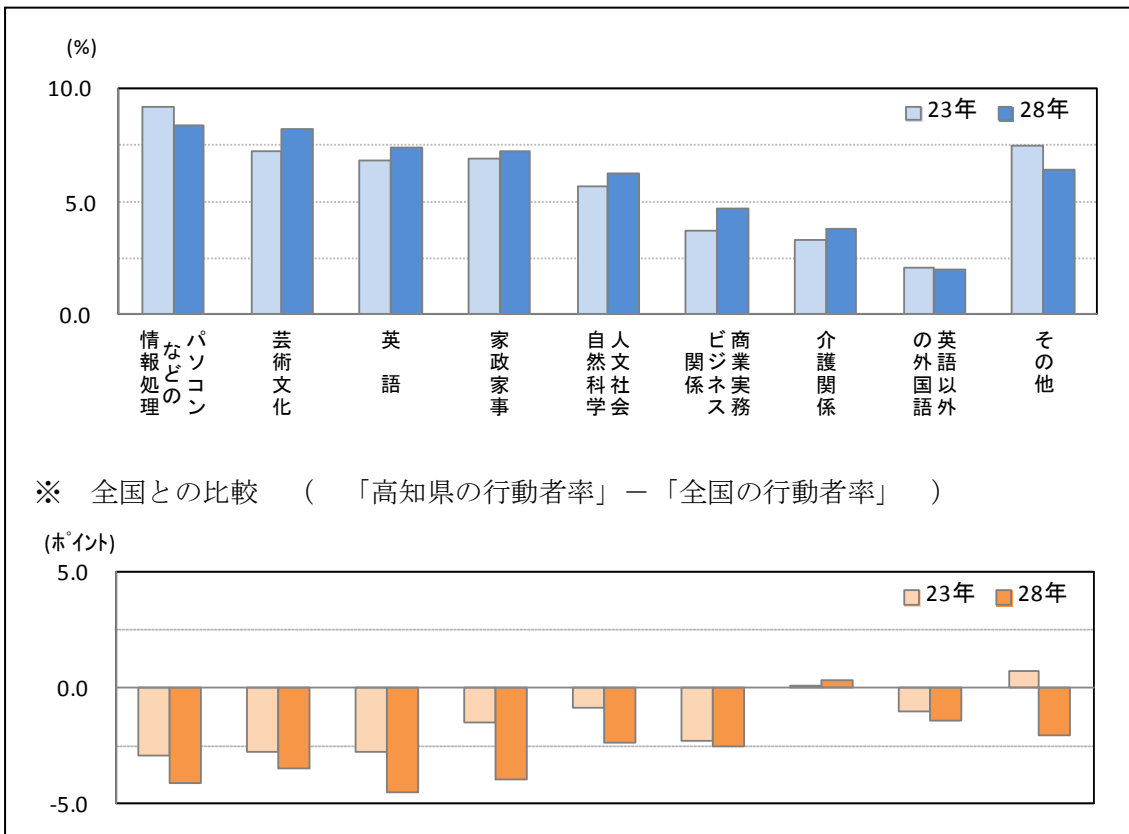
「学習・自己啓発・訓練」について、過去1年間（平成27年10月20日～28年10月19日。以下同じ。）に何らかの種類の活動を行った人（10歳以上）の数（行動者数。以下同じ。）は17万7千人で、10歳以上の人口に占める割合（行動者率。以下同じ。）は27.7%となっている。（前回（平成23年）調査27.8%）

「学習・自己啓発・訓練」の行動者率を種類別にみると、「パソコンなどの情報処理」が8.4%と最も高く、次いで「芸術文化」が8.2%、「英語」が7.4%などとなっている。

平成23年との比較では、「パソコンなどの情報処理」が0.8ポイント低下しているものの、「芸術文化」及び「商業実務ビジネス関係」は1.0ポイント上昇している。

また、全国との比較では、「英語」が4.5ポイント低くなっているものの、「介護関係」は0.3ポイント高くなっている。（図1）

図1 「学習・自己啓発・訓練」の種類別行動者率



※ 全国との比較（「高知県の行動者率」－「全国の行動者率」）

注）「学習・自己啓発・訓練」は、社会人の職場研修や、児童・生徒・学生が学業（授業、予習、復習）として行うものは除き、クラブ活動や部活動は含む。

2 ボランティア活動

- ボランティア活動の行動者率は22.6%で、5年前より1.1ポイント低下。
- 種類別では「災害に関係した活動」が1.1ポイント低下する一方、「安全な生活のための活動」は0.4ポイント上昇。
- 「健康や医療サービスに関係した活動」の行動者率は全国より0.3ポイント高い

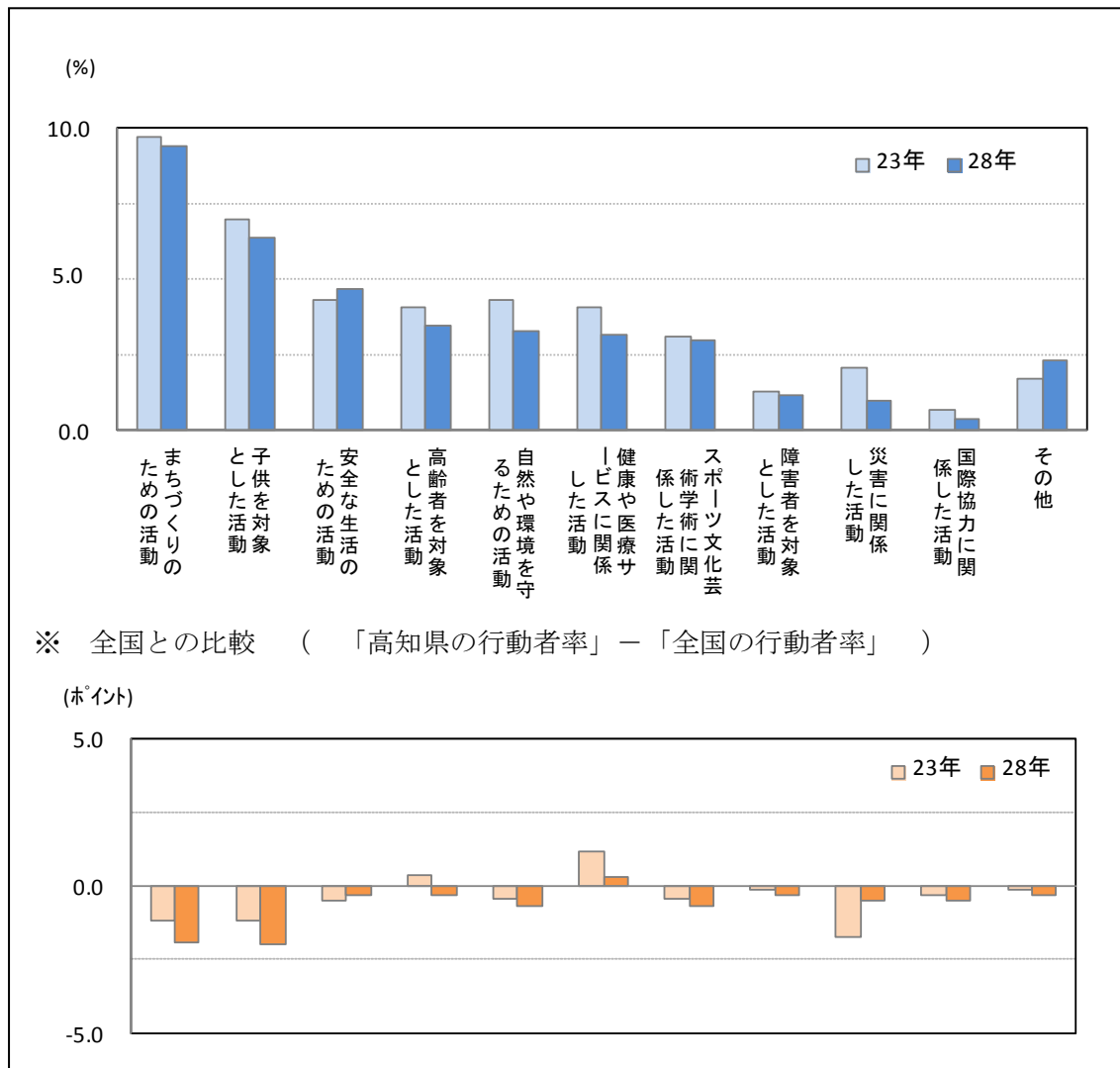
「ボランティア活動」の行動者数は14万4千人で、行動者率は22.6%となっている。(前回調査23.7%)

「ボランティア活動」の行動者率を種類別にみると、「まちづくりのための活動」が9.4%と最も高く、次いで「子供を対象とした活動」が6.4%、「安全な生活のための活動」が4.7%などとなっている。

平成23年との比較では、「災害に関係した活動」が1.1ポイント低下しているものの、「安全な生活のための活動」は0.4ポイント上昇している。

また、全国との比較では、「子供を対象とした活動」が2.0ポイント低くなっているものの、「健康や医療サービスに関係した活動」は0.3ポイント高くなっている。(図2)

図2 「ボランティア活動」の種類別行動者率



3 スポーツ

- 「スポーツ」の行動者率は62.7%で5年前より8.0ポイント上昇。
- 種類別では、「ウォーキング・軽い体操」が5.5ポイント、「器具を使ったトレーニング」が3.6ポイント、「ジョギング・マラソン」が2.6ポイント上昇。
- 「釣り」の行動者率は全国より2.8ポイント高い。

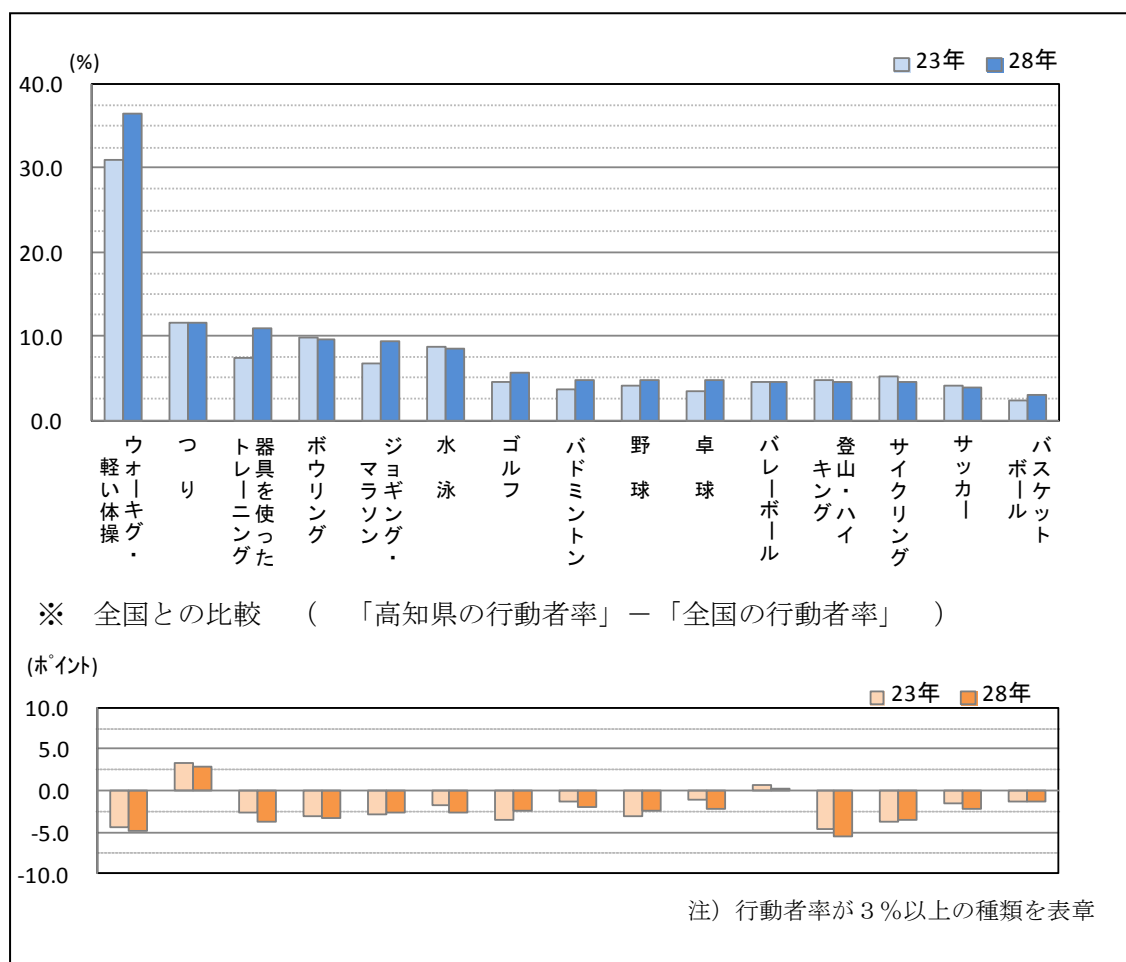
「スポーツ」の行動者数は39万9千人で、行動者率は62.7%となっている。(前回調査54.7%)

「スポーツ」の行動者率を種類別にみると、「ウォーキング・軽い体操」が36.4%と最も高く、次いで「釣り」が11.5%、「器具を使ったトレーニング」が10.9%などとなっている。

平成23年との比較では、「ウォーキング・軽い体操」が5.5ポイント、「器具を使ったトレーニング」が3.6ポイント、「ジョギング・マラソン」が2.6ポイント上昇している。

また、全国との比較では、「登山・ハイキング」が5.4ポイント低くなっているものの、「釣り」は2.8ポイント高くなっている。(図3)

図3 「スポーツ」の種類別行動者率



注) 「スポーツ」には、職業スポーツ選手が仕事として行うものや、児童・生徒・学生が体育の授業で行うものは除き、クラブ活動や部活動は含む。

4 趣味・娯楽

- 「趣味・娯楽」の行動者率は80.5%で、5年前より4.8ポイント上昇。
- 種類別では、「パチンコ」が1.0ポイント低下する一方、「映画館以外での映画鑑賞」は12.4ポイント上昇。
- 「パチンコ」の行動者率は全国より2.5ポイント高い。

「趣味・娯楽」の行動者数は51万3千人で、行動者率は80.5%となっている。(前回調査75.7%)

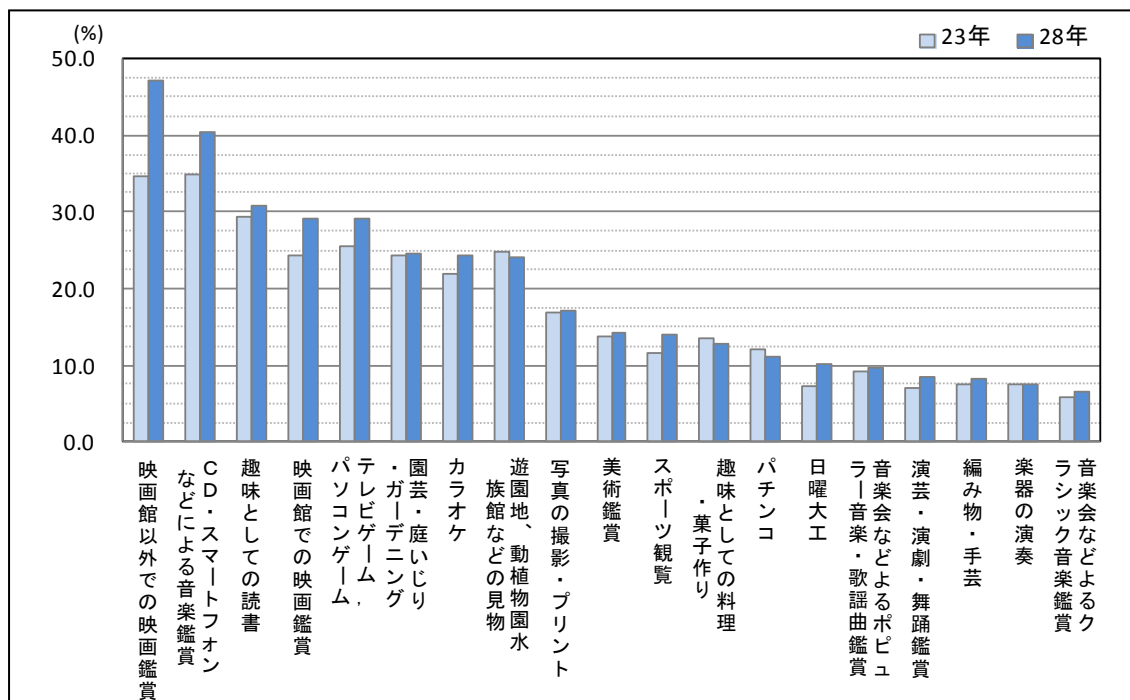
「趣味・娯楽」の行動者率を種類別にみると、「映画館以外での映画鑑賞」が47.1%と最も高く、次いで「CD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞」が40.4%、「趣味としての読書」が30.8%などとなっている。

平成23年との比較では、「パチンコ」が1.0ポイント低下しているものの、「映画館以外での映画鑑賞」は12.4ポイント上昇している。

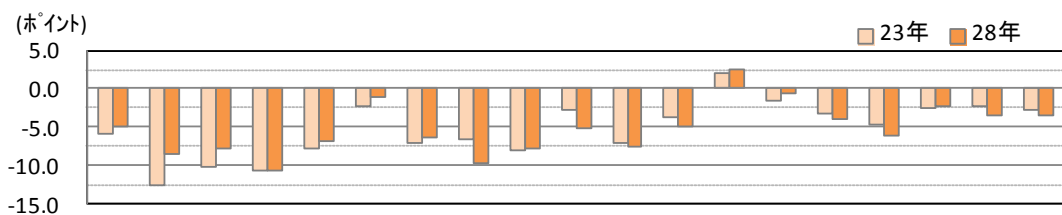
また、全国との比較では、「映画館での映画鑑賞」が10.6ポイント低くなっているものの、「パチンコ」は2.5ポイント高くなっている。(図4)

※) 映画館以外での映画鑑賞は、平成23年は「DVD・ビデオなどによる映画鑑賞(テレビからの録画は除く)」として調査、平成28年は「映画館以外での映画鑑賞(テレビ・DVD・パソコンなど)」として調査しており、定義の変更があるため比較に注意を要する。

図4 「趣味・娯楽」の種類別行動者率



※ 全国との比較 (「高知県の行動者率」 - 「全国の行動者率」)



注) 行動者率が5%以上の種類を表章

5 旅行・行楽

- 「旅行・行楽」の行動者率は60.8%で、5年前より4.1ポイント上昇。
- 種類別では、「観光旅行（国内）」が2.6ポイント、「行楽（日帰り）」が2.4ポイント上昇。
- 行動者率は、全ての種類で全国より低い。

「旅行・行楽」の行動者数は38万7千人で、行動者率は60.8%となっている。（前回調査56.7%）

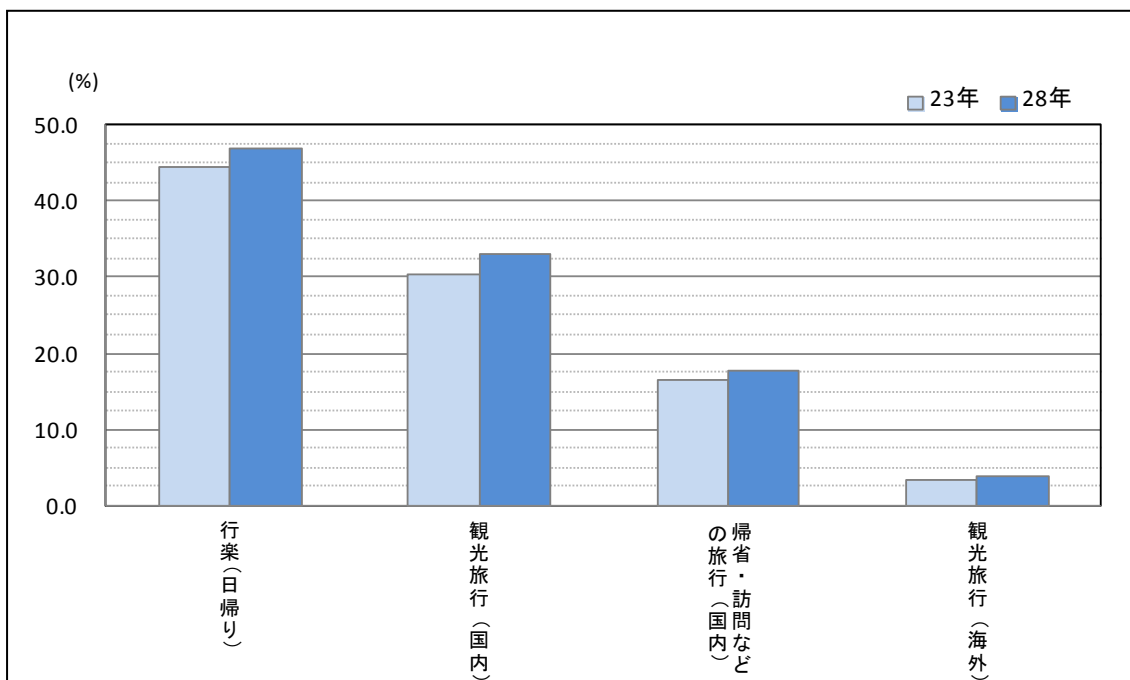
「旅行・行楽」の行動者率を種類別にみると、「行楽（日帰り）」が46.9%と最も高く、次いで「観光旅行（国内）」が33.0%、「帰省・訪問など（国内）」が17.8%などとなっている。

平成23年との比較では、「観光旅行（国内）」が2.6ポイント、「行楽（日帰り）」が2.4ポイントなど全ての種類で上昇している。

また、全国との比較では、「観光旅行（国内）」が15.9ポイント、「行楽（日帰り）」が12.4ポイント低いほか、全ての種類で低くなっている。（図5）

※）平成23年は「旅行・行楽」に「業務出張・研修・その他」を含めて調査しており、比較には注意を要する。

図5 「旅行・行楽」の種類別行動者率



※ 全国との比較（「高知県の行動者率」－「全国の行動者率」）

